

陳情第1号「錢座防空壕群の保存・活用を求める陳情」について

目次	ページ
1 九州新幹線西九州ルート建設工事現場（天神町地内） で確認された防空壕跡について	1～4
2 位置図	5
3 現状写真	6～9
4 長崎新聞記事	10

原爆被爆対策部

まちづくり部

平成31年2月



1 九州新幹線西九州ルート建設工事現場（天神町地内）で確認された防空壕跡について

（1）概 要

九州新幹線西九州ルート（事業者：鉄道・運輸機構）の新長崎トンネル坑口付近（天神町地内）の建設現場において建物を解体したところ、平成 30 年 2 月に法面に複数の防空壕跡が確認されたもの。現在、建設工事が進んでおり、15 箇所全てが掘削・埋戻されている。

なお、平成 31 年 2 月に調査を行ったところ、人工的に作られたと思われる横穴（下写真 A～C）を新たに確認した。

【平成 31 年 3 月 5 日撮影】



（2）長崎市の方針

ア 平成 30 年 2 月に発見された 15 箇所について

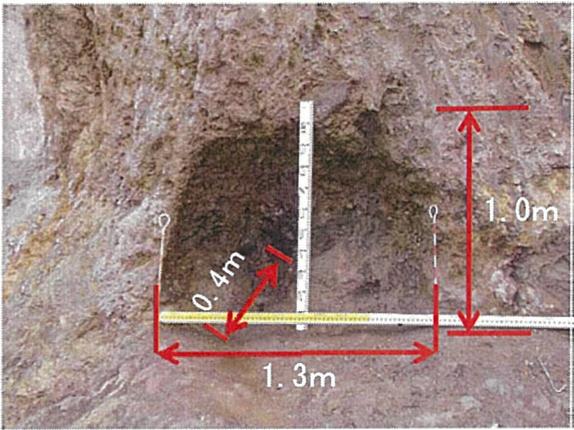
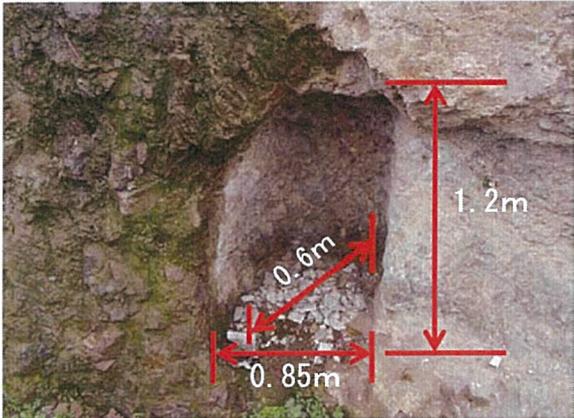
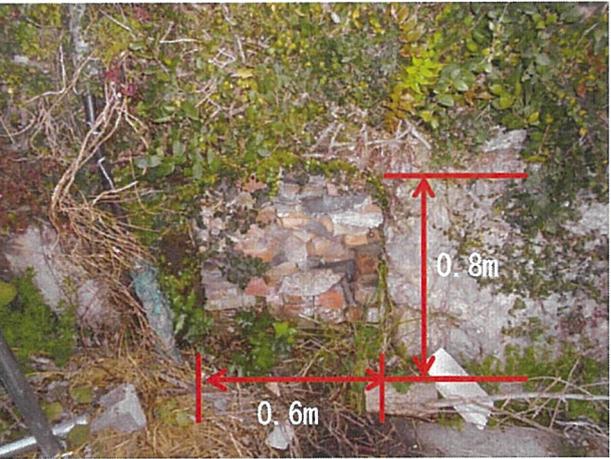
現在も市内に多く残る防空壕跡の一つであり、被爆建造物としての保存対象とは考えていない。

【理由】

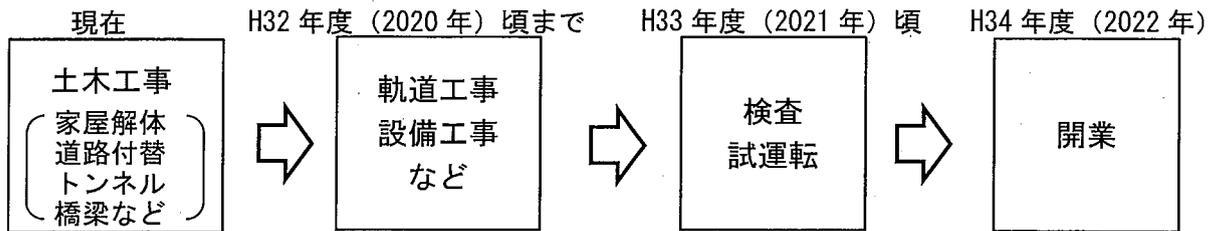
- ・ 長崎市で、事業者（鉄道・運輸機構）に協力要請を行い、防空壕跡の計測をし、壕外から写真撮影して現状の記録を行ったが、被爆の痕跡は見受けられなかった。
- ・ 原爆資料館で保存している写真に当該防空壕跡に着目して撮影しているものはなく、「米国戦略爆撃調査報告書」などの調査記録や、記録資料や証言を基に編纂した「長崎原爆戦災誌」、他の文献においても、当該防空壕跡と特定できる記述はなかった。

なお、今回の防空壕跡は、新幹線建設工事に伴い新しく築造される擁壁や、車道・歩道の切替に支障があるところに位置しており、鉄道・運輸機構からは、「斜面の安定を図り、新幹線構造物の安全性を確保するためには、15 箇所全ての防空壕跡を撤去する必要がある。」との考えが示されている。

イ 平成 31 年 2 月に確認した横穴について

<p>A 青葉荘裏（幅 130 cm × 高さ 100 cm × 奥行 40 cm）</p> 	<p>（A及びBについて） 人工的に作られた横穴と考えられるが、現状からすると窪み程度のもので、防空壕かどうか判断できない。 保存・活用の検討対象とは考えていない。</p>
<p>B 個人宅敷地直下 （幅 85 cm × 高さ 120 cm × 奥行 60 cm）</p> 	
<p>C 個人宅敷地直下 （幅 60 cm × 高さ 80 cm × 奥行（不明））</p> 	<p>（Cについて） 開口部の形状や閉塞の状況から人工的に作られた横穴と考えられるが、現状からすると開口部が小さいため防空壕跡かどうか判断できない。 保存・活用の検討対象とは考えていない。</p>

(3) 新幹線建設工事スケジュール (予定)



【防空壕跡 15 箇所の措置状況】

15 箇所 (番号 1~15) については工事に伴う掘削・埋戻し済み

【新たに確認された横穴 3 箇所の措置】

横穴 A 3 月末頃までに擁壁工事で撤去する予定

横穴 B, C 浦上街道付替部 (階段) であり、撤去する必要があるが、時期については、現時点では未定

※ 今後の工事の進捗や施工計画の見直しにより、時期は変更となる可能性がある。

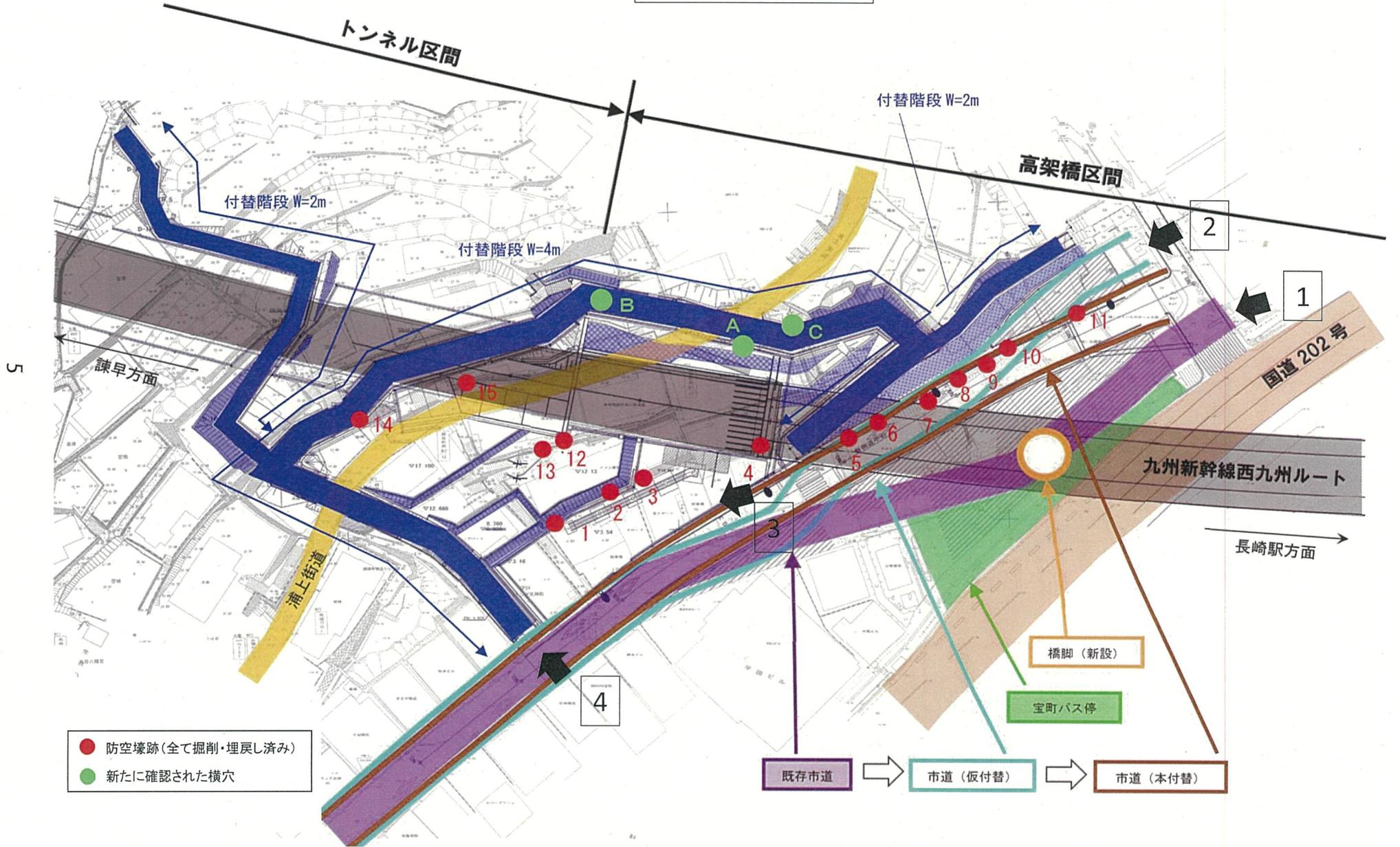
【参考】これまでの陳情等の経過

※敬称略

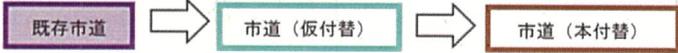
期 日	内 容	団 体 名
平成 30 年 2 月 20 日	長崎市に対し要望	長崎地区労働組合会議 (議長 小宮伸二)、西坂・銭座小学校区勤労者協議会 (会長 中村住代)
平成 30 年 2 月 27 日	市議会に対し陳情 (3/7 教育厚生委員会審査)	西坂・銭座小学校区勤労者協議会
平成 30 年 3 月 13 日	長崎市に対し申し入れ (1 回目)	在外被爆者支援連絡会 (共同代表 月川秀文、岩松繁俊、平野伸人)、平和活動支援センター (所長 平野伸人)、平和公園の被爆遺構を保存する会 (代表 竹下 芙美)
平成 30 年 3 月 16 日	長崎市に対し申し入れ (2 回目)	同上
平成 30 年 4 月 9 日	「 <u>銭座防空壕群を保存する連絡会</u> (共同代表 中村住代・月川秀文)」を結成	〔構成団体〕西坂・銭座小学校区勤労者協議会、在外被爆者支援連絡会、平和活動支援センター、平和公園の被爆遺構を保存する会、長崎地区労働組合会議
平成 30 年 4 月 18 日	長崎市に対し申し入れ (1 回目)	<u>銭座防空壕群を保存する連絡会</u>
平成 30 年 4 月 20 日	鉄道・運輸機構に対し要望	同上
平成 30 年 5 月 7 日	鉄道・運輸機構に対し抗議	同上
平成 30 年 5 月 16 日	長崎市に対し要請 (2 回目)	同上
平成 30 年 6 月 12 日	市議会に対し陳情 (6/20 教育厚生委員会審査)	同上

平成 30 年 7 月 30 日	長崎市に対し要請（3回目）	同上
平成 30 年 9 月 6 日	市議会に対し陳情 （9/14教育厚生委員会審査）	同上
平成 30 年 9 月 26 日	長崎市に対し要請（4回目）	同上
平成 30 年 10 月 10 日	長崎市に対し要請（5回目）	同上
平成 30 年 12 月 3 日	市議会に対し陳情 （12/7教育厚生委員会審査）	同上
平成 31 年 1 月 25 日	長崎市に対し要請（6回目）	同上
平成 31 年 2 月 27 日	市議会に対し陳情 （3/7 教育厚生委員会審査）	同上

2 位置図



- 防空壕跡 (全て掘削・埋戻し済み)
- 新たに確認された横穴



3 現状写真

(1) 工事状況 (平成 31 年 3 月 1 日撮影)

1



2



3

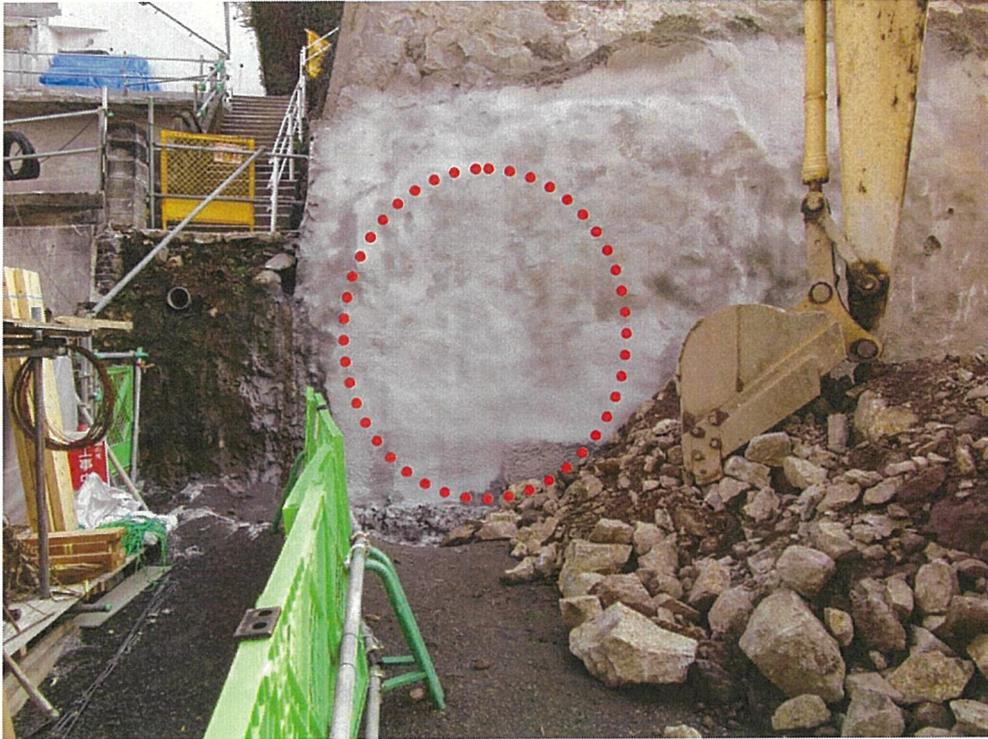


4



(2) 各防空壕跡の状況 (平成 31 年 3 月 1 日撮影)

防空壕跡 1



防空壕跡 2、3



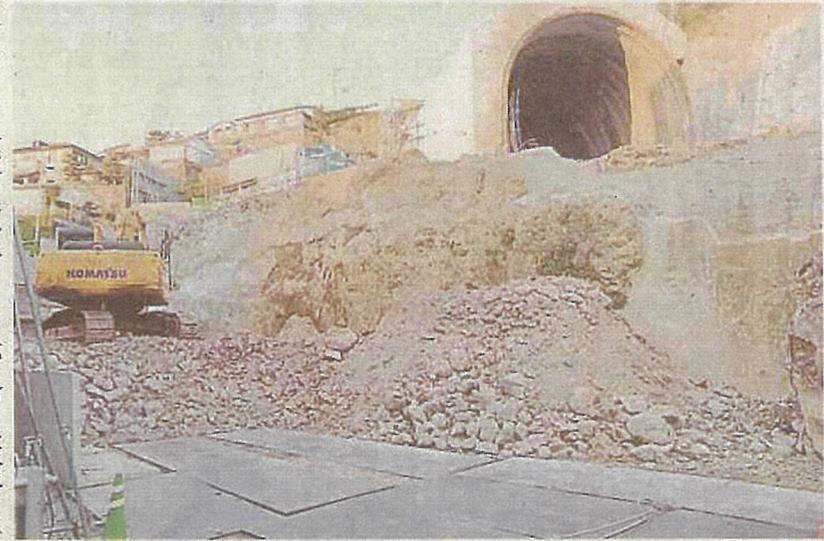
防空壕跡 4



銭座防空壕 全15ヵ所撤去

長崎新幹線建設現場 市民団体は反発

防空壕が全て撤去された九州新幹線長崎ルート建設現場
|| 長崎市内



九州新幹線長崎ルート建設現場の長崎市天神町で確認された防空壕群について、工事発注元の鉄道建設・運輸施設整備支援機構は26日までに全15ヵ所の壕を撤去した。74年前の長崎原爆投下時に市民らが避難した「原爆遺構」が姿を消した。保存運動を続けた市民団体は反発の声を上げた。

同機構が26日に明らかにした。昨年2月に確認されたが、同機構は保存しない方針を示し工事を進めていた。

保存を巡っては、長崎の5団体が同4月に市民団体「銭座防空壕群を保存する

連絡会」を発足。長崎市に對し、同機構に保存を働き掛けるよう求める要請を重ねたが、市は被爆の痕跡がないなどとして保存しない姿勢を貫いた。

撤去を受け、同会の平野伸人さん(72)は「長崎市は最初から保存に後ろ向きな姿勢で聞く耳を持たなかった。貴重な遺構がまたなくなり残念としか言いようがない」と落胆。被爆者の竹下芙美さん(77)は「戦争や原爆被害を世界に伝える被爆遺構として残すべきだった。原爆の風化がまた進むのではないかと懸念した。

(宮本祥太)